

令和四年度 奈良県知事賞

税の大切さ

奈良県立磯城野高等学校 一年 吉岡 航大

中学生で不登校になった僕は、母の勧めもあり、学校から配布された市が運営している「学習支援教室」に通うことになった。また塾のように費用を出させることになってしまったなと思っていた。しかし、母から「無料だから行けるときだけでも行ってみよう。」と言われ、その時はそうなんだ位にしか思っていなかった。通うにつれ、ボランティアの大学生に遅れていた勉強を教わったり、時にはみんなでゲームをしたり、日に日に自分の居場所となっていた。一年間はあっという間だったが、高校には行けない行かないと思っていた僕が高校入試を頑張ろうと思えた居場所でもあり、その思いを支え応援してくれた。おかげでここなら頑張れると思える高校に合格できた。

高校入学にあたり、資料が配布された中に「高等学校等就学支援金制度」のお知らせがあった。僕には関係ないなとおもいながら、母に手渡すだけだった。しかし、高校生活一学期の終了前の個人懇談の際に、一つの封筒が手渡され、「大切なお知らせなので。」と担任から言われた。僕は何かしてしまったのだろうか……とドキドキしてしまった。帰宅後に母から「高等学校等就学支援金制度」の通知だと知らされた。母から、この制度は国による授業料支援の仕組みで全国の約八割の生徒が利用している。公立の高等学校に通う生徒であれば年額十一万八千八百円もの支えが受けられ、家庭での授業料負担はなくなる。税金によって支援されている制度だと。納税してくれている方々にもあなたの高校生活は支えてもらっている、又これまでの不登校に支えてくれた「学習支援教室」も市民税が使われていたのだと教えられた。税金でもそれぞれ出どころが違えど納税してくれる方々がいるからこそ実現している制度や事業だと知り、僕はとても驚いた。僕は目に見えない多くの方々のおかげで今の生活をおくれていることを改めて実感した。

僕は今は、学べる場所を得て、楽しい高校生活を休むこと無く送れている。しんどいときが全く無いとは全く言えないが、多くの方々に支えられていることを忘れずに頑張りたいと思っている。そして、納税し、支えられる立場になれるように、良い環境を提供できるひとりの僕という存在になりたい。